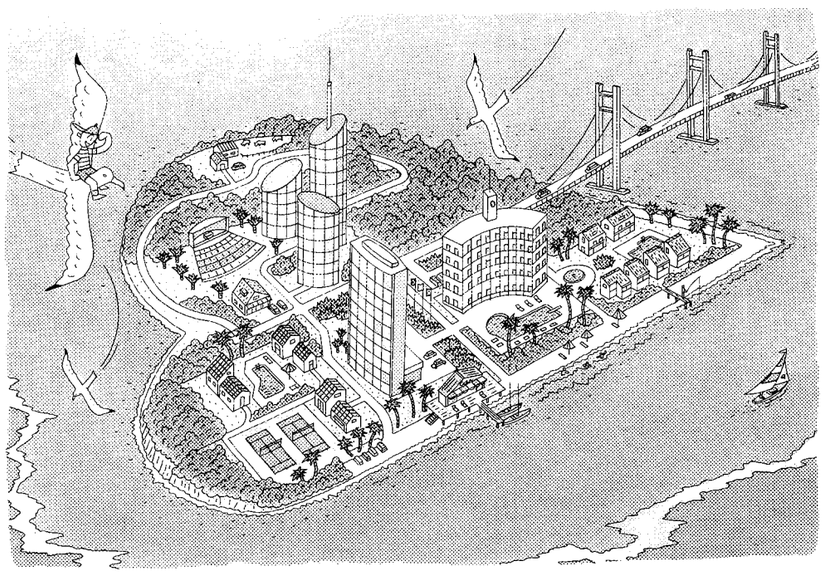
人と地球にあたたかな技術、ハートテクノロジー。

海の息吹、大地の鼓動、そして都市の活気。地球の自然と快適な生活の調和こそ、私たちの願いです。人にあたたかな技術を追究し、夢を確かなカタチに育て、感動の明日を築いていきます。



東洋建設

東京都江東区青海二丁目4番24号 青海フロンティアビル
〒135-0064　TEL.(03)6361-5450
http://www.toyo-const.co.jp

美しい時代へ――東急グループ

Town Value-up Management
タウン バリューアップ マネジメント

街の新たな価値創造をめざして

私たち東急建設の原点は、多摩田園都市をはじめとする渋谷や東急沿線の街づくりです。私たちはこの原点に立ち、企画提案から新築、リニューアル、建て替えに至るまで、街のライフサイクルに末永く関わっていくことによって、建物ひとつひとつではなく、お客様や生活者の視点で“まち”全体を考え、常に新たな価値の創造に努めてまいります。

街並の美観向上　定住人口の増加
Town Value-up Management
来街者の増加　資産価値の向上

東急建設株式会社
http://www.tokyu-cnst.co.jp/

「安全・安心」実現する新たな技術

被災地の応急復旧支援に始まり、がれき処理、原発事故対応、放射能汚染地域の除染と慌ただしく仕事に追われる建設業界。これから本格化する震災復興事業の担い手でもある。建設業界は災害対応を社会的責任として強く自覚する。震災から1年が過ぎ、安全・安心な社会を実現する新たな技術開発も具現化してきた。

がれきコンクリ塊 セメント硬化体に

大成建設は津波で生じたがれきのコンクリート塊を粗破砕し、セメントで固めて硬化体とするリサイクル技術の実用化にめどをつけた。堤防の盛り立てや地盤のかさ上げなど被災地における復興資材としての活用を見込んでいる。コンクリート塊は破砕機で80ミリメートル程度の大きさに砕き、そのままセメントと水を混合して硬化体にする。供試体試験では水セメント比の調整や締め固めなどの品質管理により、1平方ミリメートル当たりの最大荷重で示される圧縮強度で、普通コンクリートに迫る15―20ニュートン（1平方センチメートル換算で約150―200キログラム）という結果が得られた。

これまでコンクリート塊は破砕してそのまま盛り土の基盤材や路盤材などとして敷きならす他、再生骨材にするリサイクルが普及している。再生骨材化はコンクリート塊を細かく破砕し、分級（ふるい分け）処理する必要があるが、被災地で災害廃棄物を効率よく再資源化するため、コンクリート塊を母材としたセメント硬化体の利用技術開発に取り組んだ。

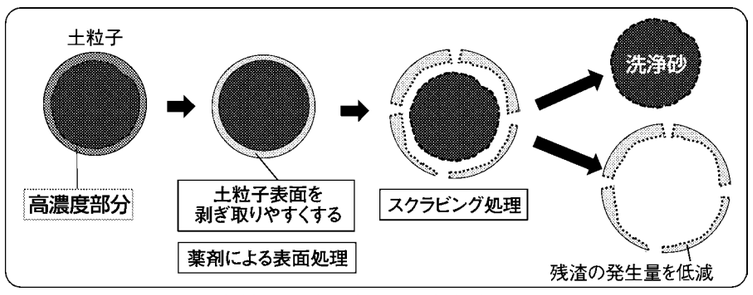
がれきのコンクリート塊を粗破砕してセメントで混合（大成建設）

放射性汚染土壌 5分の1に減容

震災の2次被害といえる東京電力福島第一原子力発電所事故。放射性物質による汚染により福島県ではいまだに多くの人々が避難生活を強いられており、まず復旧・復興の前提となるのが除染だ。確実な除染作業と同時に除去した汚染物質を効率的かつ安全に保管する技術が求められている。

清水建設は福島県内に放射性物質汚染土壌を5分の1に減容（減容率80％）できる分級・洗浄処理の実証プラントを設置した。放射性セシウムを吸着している土粒子表面の高濃度汚染部分を、薬剤による表面処理（スクラビング）と気泡分離（フローテーション）で効率的に除去し、これまでの分級・洗浄処理で平均的な減容率70％を10ポイント程度向上させる。プラントには凝集沈殿で残渣として取り出す高濃度汚染部分の造粒装置も組み入れられており、減容率を高めて中間貯蔵などに回る処分量を減らすとともに、保管容器へすき間なく自動投入して作業員の被ばく量を抑える。

放射性セシウムは土壌の細粒分に付着している。まず、湿式ふるいとサイクロンによる分級工程で細粒分を取り出し、残った粗粒分の表面（細粒分）をスクラビング・フローテーションの洗浄工程ではぎ取る。土壌の汚染レベルに応じて細粒分と粗粒分の分級値は調整できる。



土粒子の表面処理（清水建設）

放射性廃棄物用のRC製保管容器

戸田建設はバリウム含有遮蔽板を取り付けて放射線量を低減できる鉄筋コンクリート（RC）製の放射性廃棄物用保管容器を開発した。放射能汚染レベルの高い焼却灰や除去土壌、除染作業に伴う汚染水処理残渣などの造粒装置も組み入れられる。福島県内で実証実験を行い、容器本体で80％、遮蔽板（厚さ35ミリメートル）併用で90％の遮蔽性能を確認した。

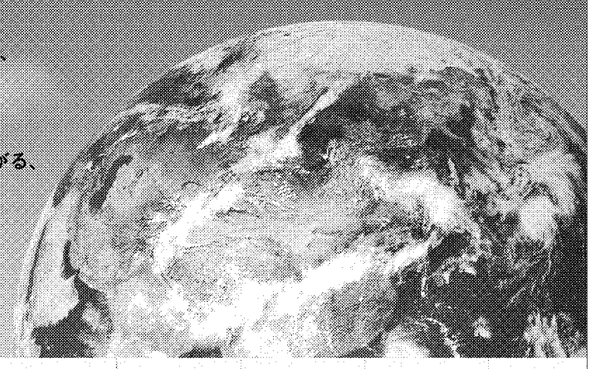
容器本体はRC厚さ12センチメートルで容積1・32立方メートル（内寸1111×1111×1110センチメートル）。上下（ふたと底部）に凹凸を付け、積み重ねても安定して保管できるように配慮した。遮蔽板は保管時に外側に出る部分や作業時の被ばく量を抑えるため、必要に応じて取り付ける。行政が進める除染の他、民間事業所などが独自に取り組む除染作業での保管・遮蔽需要を見込んでいる。

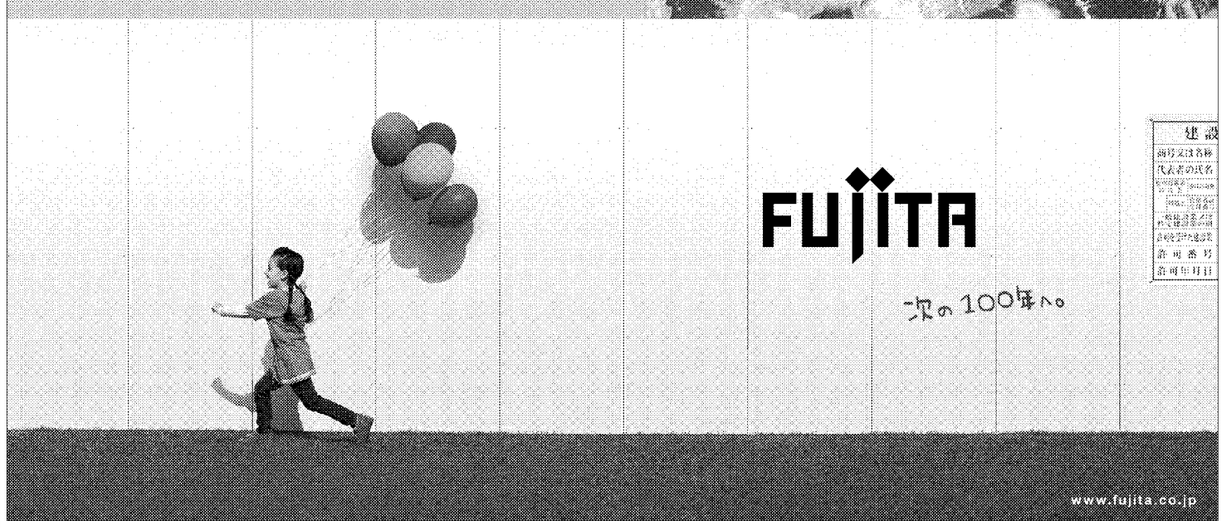
RC製の放射性廃棄物用保管容器を使った実証実験（戸田建設）

FUJITA'S FUTURE

未来は大きな可能性に満ちた希望の世界です。過去は今を創り、
今は未来を創る原動力。フジタは、築き上げた総合力をもって、
次の時代に柔軟に対応していきます。建設を基盤とした豊かな
環境づくりへ。フジタは、いま、人と地域と自然がひとつにつながる、
“高”環境づくりを目指します。子供たちとその子供たちが
のびのびと生きていける快適な環境を創造するために。

たゆまず、未来をつくる。フジタ





いいマンションには、いい心が住んでいる。
長谷工の
「ロングクオリティ・マンション」

いいものごとは、いい心が作っていく。
マンションにとって「建物の品質」はもちろん大切ですが、
そのマンションでの「生活の品質」もまた大切なこと。
長谷工のロングクオリティ・マンション、
それは「品質のいいマンションを作って、
それをさらにいいマンションに育て、
そして次の世代へつないでいく。」という考え方のマンションのこと。
地球の環境にとってもいいマンションです。
私たち長谷工は、
いいマンションを作りながら、いっしょに、いい社会を作っていきたい。

いい暮らしを、創る。
住まいのオンリーワングループ
HASEKO 長谷工 コーポレーション
http://www.haseko.co.jp